コンピュータと教育 5－2
（1989. 5. 11）

情報化社会と入試制度の大学新入生への影響

－ 一地方国立大学昭和６３年度入学生に対するアンケート結果を中心に －

松原　勇　　高尾テルノ

金沢経済大学　　富山大学

新人類という言葉はすでに古いと言われるくらい激しくかわる若者の性格に加えて、猫の目のように変わる入試制度により（特に、現在のような情報化社会にあっては押し寄せてくる情報の渦の中で）、新入生の意識構造が大きく変化していると考えられる。そこで、著者らの行ってきた一地方国立大学でのアンケートの結果のうち昭和６３年度入学者を対象に行ったものの結果を中心に考察し、さらに志願動機についてここ数年の変化についても考察してみた。その結果、学生は入試制度の変化の中で溢れる情報の波に揺り動かされていることがうかがわれた。

The Influence of Changes of Entrance Examination System and Information-Oriented Society on Freshmen at a University

- Results of Questionnaires to Freshmen Who Enter a University at 1988 -

Isamu MATSUBARA
Kanazawa College of Economics
10 Ushi, Gosho-machi, Kanazawa-shi, 920, JAPAN

Teruno TAKAO
Toyama University
3190 Gofuku, Toyama-shi, 930, JAPAN

The authors have an impression that the patterns of thinking and behavior of new students are now changing. We are very concerned about the causes of those recent changes. By using questionnaires, we asked freshmen at a University how they live, how they feel and what they are worried about. By analysing the results of this investigation, we draw the conclusion that (1) most of the students are overwhelmed by a large amount of information and therefore find it difficult to select appropriate one and (2) they are greatly influenced by the current changeable entrance examination system.

1．はじめに

著者の一人はこれまで情報処理教育に携さわって、いくつかのシステムを作成したり情報処理教育方法や環境等について報告[(1)-(4)]してきたが、実際の指導におて、情報化社会といわれるなかで、学生が大学へ入ることだけを目標に勉強してきたためか、一部になかなかやる気の起きない学生がいることを感じている。

また、もう一人の著者は保健管理センターで行っているカウンセリングや、アンケート調査などにから大学生の学生生活や悩み・意識構造などを分析[(5),(6)]してきたが、最近の学生の意識構造や悩みの内容が変化してきていることを感じている。

それらは、新人類という言葉はすでに古いと言われるくらい激しくかわる若者の性格に加えて、猫の目のように変わる入試制度により（特に、現在のような情報化社会にあっては押し寄せてくる情報の渦の中で）、新入生の意識構造が大きく変化していると考えられる。そこで、著者らのおこなってきた一地方国立大学（Ｔ大学）でのアンケートの結果のうち昭和６３年度入学者を対象に行ったものの結果を中心に考察し、さらにここ数年の変化についても考察してみたので報告する。

2．調査対象と分析方法

調査対象は典型的な地方国立大学であるＴ大学の昭和６３年度入学の学生である。調査時期は入学してから少し大学生活に慣れてきた９～10月に行った。調査は体育の授業時などに集団で行い、すべて無記名とした。

その結果、昭和６３年度は在籍者の９割以上にあたる1475人（男923人、女552人）から回答がえられた。また同様なアンケートが昭和62年度は1222人（男830人、女392人）、昭和61年度は694人（男427人、女267人）、昭和60年度は877人（男618人、女259人）、昭和59年度は302人（男189人、女113人）から回収され、昭和62年度までの結果の分析をすでに幾つか報告してある[(7)-(8)]ので参照されたい。

本稿ではそれらの結果の全てを報告することは紙幅の関係からも不可能であるので、昭和63年度に入試制度が変わったことや、若者の意識構造の変化が激しいことなどから、昭和63年度の調査結果を中心に示し、さらに入学志願の動機等については５年前からの変化を示すことにする。

3．昭和６３年度の調査結果

3.1 学生生活について

まず、学生生活についての質問（Ｑ１～Ｑ４）に対する解答の分布を性別をサブグループにとって示す。

Ｑ１の結果から高校での生活に満足であった者がやや多く、その満足内容はクラブ・友人関係、不満内容は学校での生活・学習面が多いことがわかった。

Ｑ１ ア．あなたの高校時代は今よりも満足した生活を送っていましたか，それとも不満がありましたか。

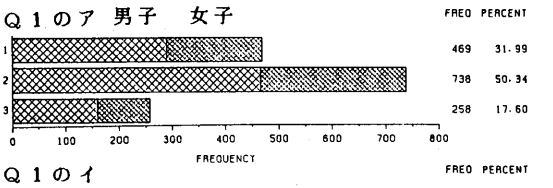
1. 満足であった　2. どちらともいえない　3. 不満があった

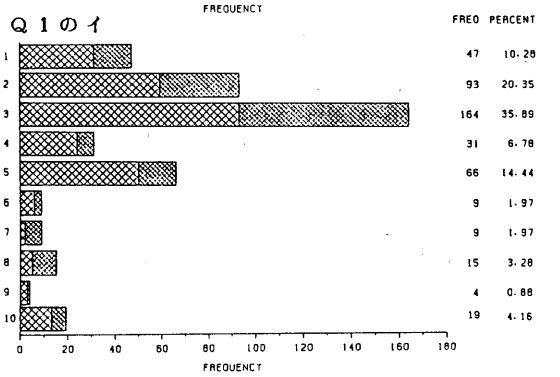
イ．アで１と答えた人だけ答えてください。（１つだけ○）

1. 学習面で充実していた　2. クラブ活動　3. 友人関係
4. 生活態度・規律がよかった
5. 自由があり，生活が充実していた
6. 心身共に健康であった　7. 交通の便が良かった
8. 教師に恵まれていた　9. 施設設備が良かった
10. その他（具体的に記入:　　）

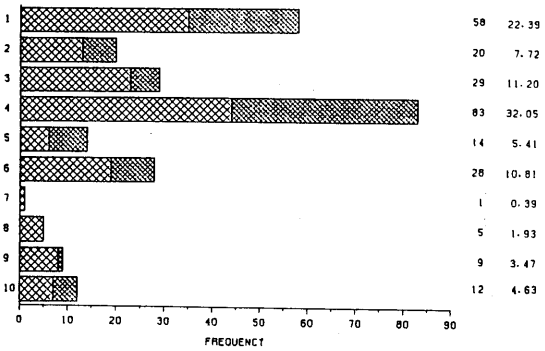
ウ．アで３と答えた人だけ答えてください。（１つだけ○）

1. 学習面　2. クラブ活動　3. 友人関係
4. 学校での生活　5. 家庭での生活　6. 自分の生活態度
7. 健康　8. 交通の便　9. 教師に対して
10. その他（具体的に記入:　　）





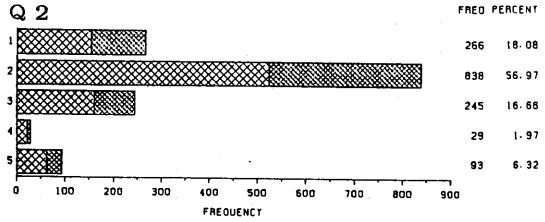
Q１のウ



Q２ あなたは，現在の大学生活にどの程度満足していますか。（１つだけ○）

1. 割合充実した大学生活を送っている
2. こんなものだろうと思って大学生活を送っている
3. なんのために大学にいるのかわからない，不満だ
4. 大学をやめようと思っている，大学生活は意味がない
5. そういうことは考えたことがない

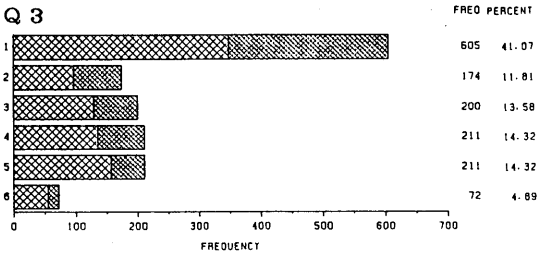
Q２



Q３ あなたは現在できればどんな大学生活を送りたいと思っていますか。（１つだけ○）

1. 広く教養や知識を身につけたい
2. 人生，社会，思想や自己についてもっと研究したい
3. 将来のための学力をつけたい
4. クラブ・特技などもっとやりたい
5. そういうことは考えたことがない
6. その他（具体的に記入:　　）

Q３



Q４ 現在の大学生活で，あなたが一番満足に感じていることはどんなことですか。また一番不満に感じていることはどんなことですか。

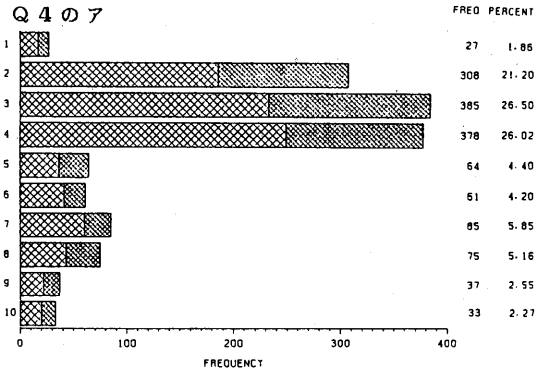
ア．満足内容（１つだけ○）

1. 学習・研究面で充実している　2. クラブ・サークル活動
3. 友人関係　4. 時間的に余裕がある（自由がある）
5. 生活が充実している　6. アルバイト・経済的に
7. 寮・下宿生活ができた　8. 通学の便　9. 健康
10. その他（具体的に記入:　　）

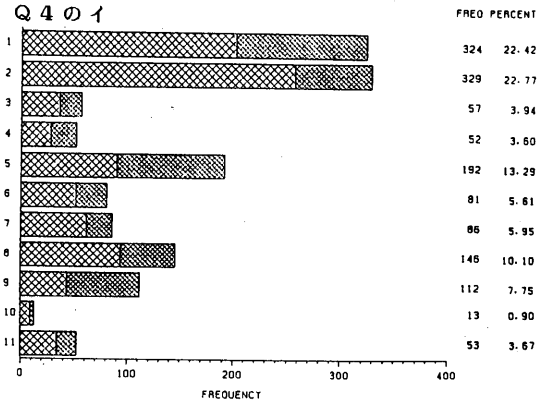
イ．不満内容（１つだけ○）

1. 授業内容　2. 成績・単位制度
3. クラブ・サークル活動　4. 友人関係
5. 時間的に余裕がない　6. 生活態度　7. 経済的
8. 学校の雰囲気が悪い　9. 通学の便が悪い　10. 健康
11. その他（具体的に記入:　　）

Q４のア



Q４のイ



Q２の結果から現在の大学生活（入学後約半年）は「まあこんなものだろう」と思っている者が多いことがわかった。

Q３の結果から専門的なことよりも広い教養を身につけたいと思っている者が多いことがわかった。

Q４の結果から大学生活での満足内容はQ１の高校時代と同様にクラブや友人関係が多いことがわかった。また、不満内容は授業内容や成績関係が多かったが、これは１年次はまだ教養部であるために志望した学部や学科とは異なる授業を受けているためではないかと思われる。

以上のことから学生生活については友人関係やクラブ活動が非常に大事であることがわかった。また、自由な生活を望んでいるらしいこともわかった（これは次節でもっとはっきりする）。

3.2 暮し方・生きがいについて

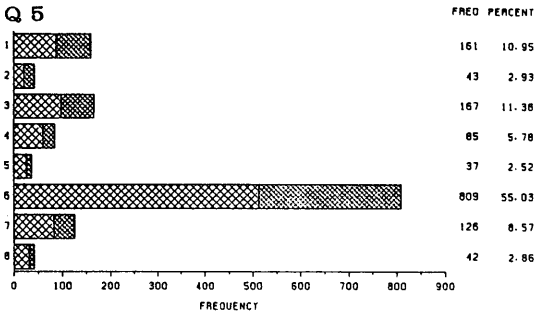
第2に暮し方・生きがいについての質問（Q5～Q7）に対する解答の分布を性別をサブグループにとって示す。

Q5の結果から受験という大きなイベントが終わったためか、のびのびと好きなことをやってみたいという者の割合が多いことがわかる。

Q6の結果からQ5と同様に自分の趣味にあった暮しを望んでいる者が多いことがわかった。

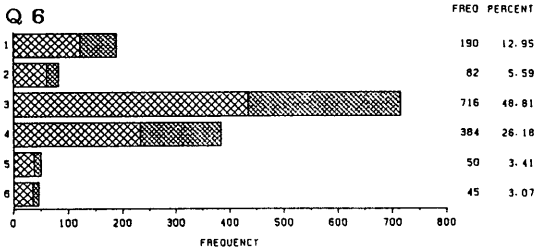
Q5 高校を卒業し，大学の入学が決まった頃，あなたは,「大学に入ったらどんなことができる」と思っていましたか。あるいは，「どんなことをしよう」と考えていましたか。（1つだけ○）

1. 教科書以外に教養面の本を読み自分を高めたい
2. 先生たちと自由に議論したり，人格に触れたりしたい
3. もっと世間や実社会について知りたい
4. クラブ活動やスポーツに時間をかけたい
5. 友人と人生などについて考え話し合ってみたい
6. のびのびと好きな事をやってみたい
7. 特に何も考えなかった
8. その他（具体的に記入:　　）



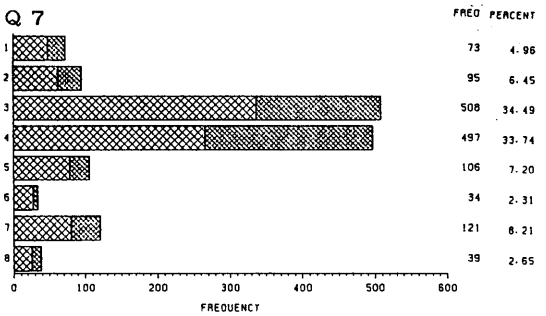
Q6 人のくらし方にはいろいろあるでしょうが，次の1～6の中でどれがあなた自身の気持ちに近いものですか。（1つだけ○）

1. 一生けんめい働き，金持ちになること
2. まじめに勉強して名をあげること
3. 金や名誉を考えずに，自分の趣味にあったくらしをすること
4. その日，その日をのん気にクヨクヨしないでくらすこと
5. 世の中の正しくないことを押しのけてどこまでも清く正しくくらすこと
6. 自分の一身のことを考えずに社会のためにすべてを捧（ささ）げてくらすこと



Q7 あなたが一番生きがいを感じるのはどんな時ですか。（1つだけ○）

1. 社会に役立つことをしているとき
2. 勉強・研究に打ちこんでいるとき
3. 趣味に打ちこんでいるとき
4. 友人・仲間と一緒にいるとき
5. 親しい異性と一緒にいるとき
6. 一人でいるとき
7. 生きがいを感じた時がない
8. その他（具体的に記入:　　）



Q7の結果からQ5、Q6と同様に趣味に打ち込んでいる時と答えた者がもっとも多かったが、友人との関係も大きな位置を占めていることがわかる。

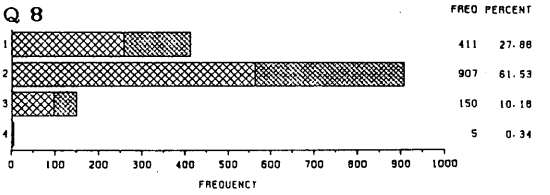
以上のことから前節でも述べたが、現在の大学生は自分の好きなように暮らしたいことがわかる。

3.3 悩みについて

悩みは精神的自我の体験であるといわれ[9]-[10]特に内面生活、精神生活が中核となる大学生においては基本的な問題である。そこで、以下に悩みに関する質問（Q8～Q13）に対する解答の分布を性別をサブグループにとって示す。

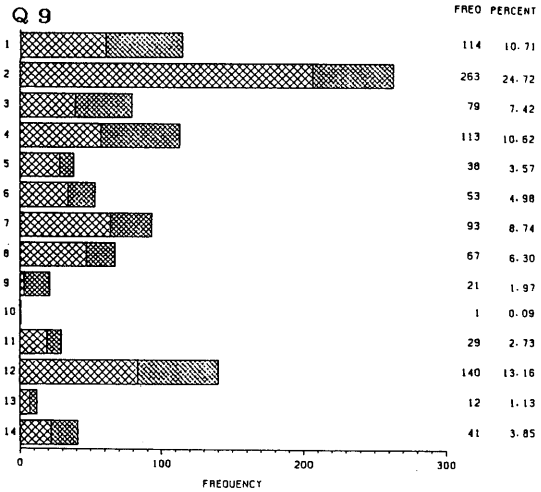
Q8 あなたは，現在，個人的な悩み（心配ごと）を持っていますか。（1つだけ○）

1. 悩みごと（心配ごと）は全くない
2. 多少悩んでいる（心配している）ことがある
3. ひどく悩んでいる（心配している）ことがある
4. その他（具体的に記入:　　）



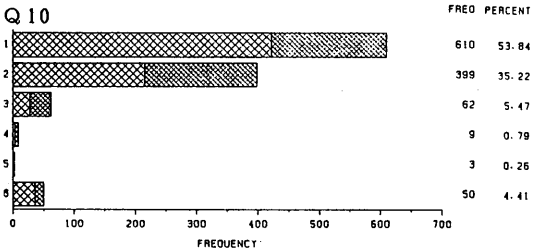
Q９ あなたの現在の悩み（心配）ごとは，どのような内容のものですか，次の１～14の中，自分に最もよくあてはまるものを記入してください。

1. 友人関係　　2. 成績関係
3. 課外活動関係　　4. 自分の性格
5. 病気や身体的問題　　6. 物事に熱中できない
7. 恋愛問題　　8. 経済的問題
9. 家族との関係　　10. 教師との関係
11. 人生・思想上の問題　　12. 進学・就職問題
13. なんとなくノイローゼ気味
14. その他（具体的に記入:



Q１０ あなたは，悩みごと（心配ごと）を主にどのようにして解決していますか。（１つだけ○）〔なお，３の家族と相談する場合，家族の誰れと相談するか。４の先生と相談する場合，幼，小，中，高校，大学のどの時代の先生に相談するかを（　　）の中に記入してください。〕

1. 自分一人で考える
2. 近所や学校，下宿の友人に相談する
3. 家族（　　）と相談する
4. 先生（　　）と相談する
5. 専門家や適当な相談機関に相談する
6. その他（具体的に記入:　　）

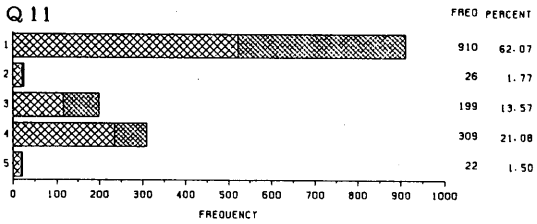


Q８の結果から割合は１０％程度であるがひどく悩んでいる者がいることがわかる。

Q９の結果からQ４で出てきた大学生活の不満の内容と同様に悩みの内容も成績関係が一番多いが、あとは多岐にわたっており、個人によってさまざまに異なることがわかる。

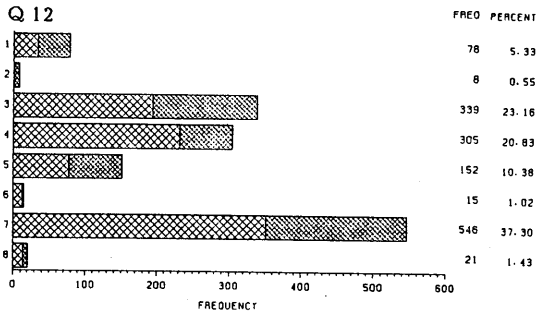
Q１１ あなたは，どんなことでも心をうちあけて話せる親しい友人がいますか。（１つだけ○）

1. 同性の友人でいる　　2. 異性の友人でいる
3. 両方（同性・異性）ともいる　　4. いない
5. その他（具体的に:　　）



Q１２ あなたは対人関係（人とのつきあい）で現在最もむずかしい，また悩みを感じているのはどんなことですか。（１つだけ○）

1. 親子関係　　2. 兄弟姉妹関係
3. 友人関係　　4. 異性関係
5. 先輩，後輩関係　　6. 先生との関係
7. 感ずるものなし
8. その他（具体的に:　　）



Q１０の結果から悩みがあっても一人で考える者が最も多いことがわかる。

Q１１の結果から悩みを打ち明ける友人は持っている者が多いことがわかるが、Q１０とはやや矛盾することから、友人がいても悩みを話せない者が多いのではないかと推測される。

Q１２の結果から対人関係について悩みのない者もいるが、友人関係や異性関係・先輩関係で悩みを持っている者も多いことがわかる。

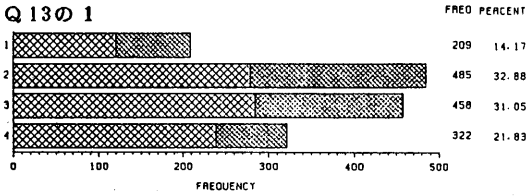
Q１３ではいろいろな質問に対して４段階で答えてもらっているが、その中で１番目や３番目および４番目の設問によく当てはまると答えているのがわりあい多く、精神的にいらいらしている者も多いことがわかる。

以上のことから、悩みを自分一人でかかえて、憂鬱な状態になっている者もかなりいることがわかる。

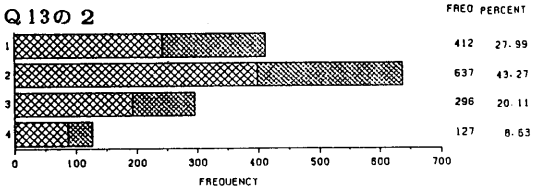
Q 13 次に，いろいろ質問があります。日常のあなたの習慣や行動をふりかえってみてどう思いますか。全問について 1.よくあてはまる～4.まったくあてはまらないのうち該当するものを選んで○を記入してください。（いずれかに必らず○を記入すること）

項目番号	1 よくあてはまる	2 少しあてはまる	3 あまりあてはまらない	4 全くあてはまらない
1. はっきりした理由もないのに，楽しくなったり，ゆううつになったりする	1			
2. 物事を計画するより，実行する方が好きである	2			
3. たびたび気分の浮き沈みがある	3			
4. 注意を集中しようとしても，気が散ってしまいがちである	4			
5. たいてい，自分の方からすすんで友だちをつくっていく方である	5			
6. 物事をてきぱきとやっていく方である	6			
7. 人と話している最中でも，ふっと物思いにふけることがある	7			
8. 自分は，活気のある人間である	8			
9. 人との交際が，できなくなるのは，とてもやりきれない	9			
10. 自分の体臭や視線が他人に迷惑をかけていると思うことがある	10			
11. 孤独感を強く感じたりすることがある	11			
12. 自殺したいと思うことがある	12			
13. 他人がさけたり，人に監視されていると思うことがある	13			
14. 眠れないときがよくある	14			
15. 自分の過去や家庭は不幸であると思うことがある	15			

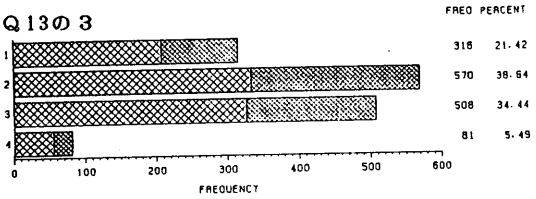
Q 13の 1



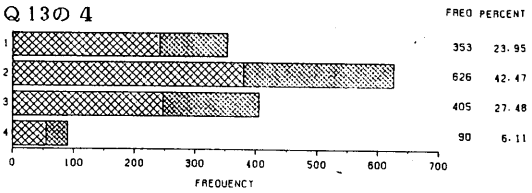
Q 13の 2



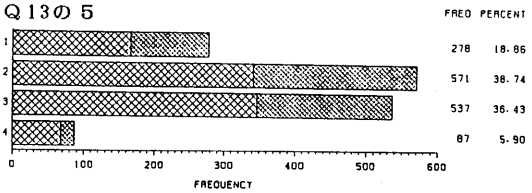
Q 13の 3



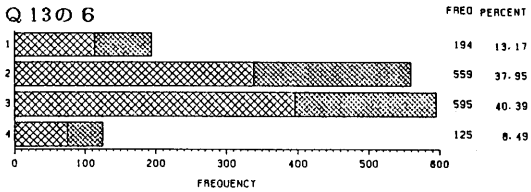
Q 13の 4



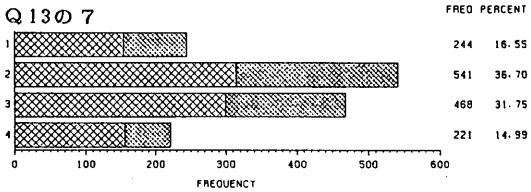
Q 13の 5



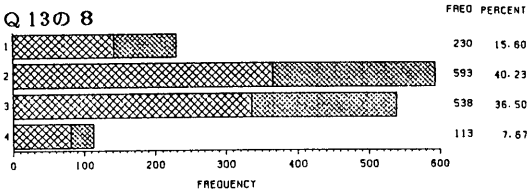
Q 13の 6



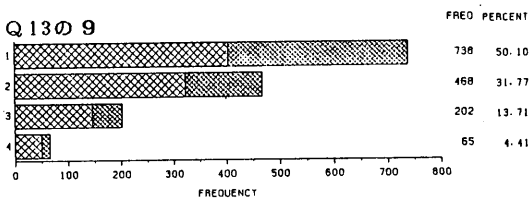
Q 13の 7



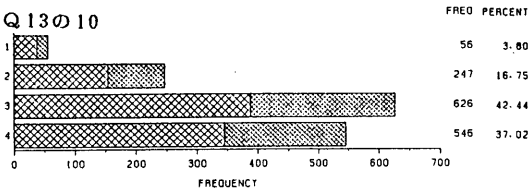
Q 13の 8

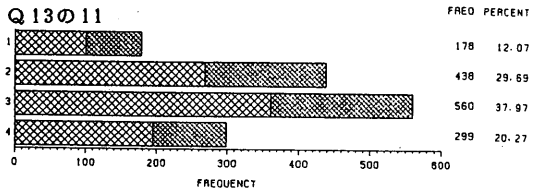


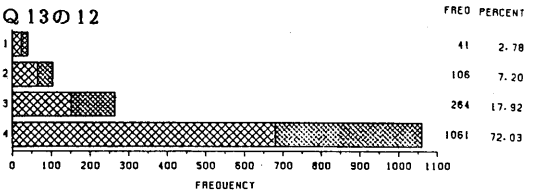
Q 13の 9

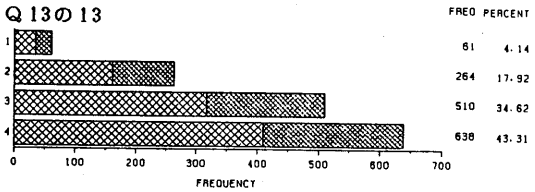


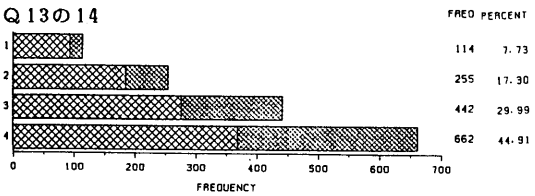
Q 13の 10

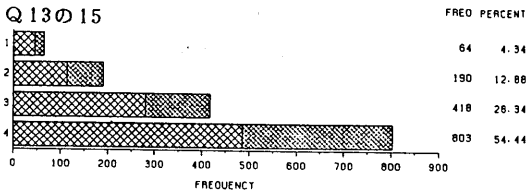












4. 志願動機のここ数年の変化について

このような調査は毎年地道に行ってきているので、各質問に対する経年的変化をみることもできるが膨大な量になるので、ここでは志願した動機に対する質問（Q14）の解答を５年間分示す。そのQ14の結果からいえることを以下に２つにまとめる。なお、１つだけ選ぶのは難しいという意見が過去に多かったので５年前からは２つ選ばせている。

4.1 毎年いえること

友人や兄弟の勧めで大学を選ぶ者はほとんどいない。また、最も大切な自分の性格や適性を考慮している者がいずれの年も10%にも満たない。それに対して、学業の成績（共通一次の結

Q14. あなたはどんなことを考慮に入れてこの大学を選びましたか。（２つ○）	昭和６３年度 全体（男子、女子） 解答率（%）	昭和６２年度 全体（男子、女子） 解答率（%）	昭和６１年度 全体（男子、女子） 解答率（%）	昭和６０年 全体 解答率(%)	昭和５９年 全体 解答率(%)
1．学業の成績	877 (605,272) 62.1%	707 (506,201) 61.2%	368 (245,123) 58.2%	476 55.1%	161 53.3%
2．性格・適性など	119 (68, 51) 8.4%	78 (59, 19) 6.7%	37 (22, 15) 5.8%	55 6.4%	25 8.3%
3．特技、クラブ活動など	14 (10, 4) 1.0%	15 (13, 2) 1.3%	8 (7, 1) 1.3%	7 0.8%	3 1.0%
4．先生の勧め	119 (78, 41) 8.4%	134 (90, 44) 11.6%	59 (38, 21) 9.3%	94 10.8%	29 9.6%
5．親の勧め	142 (56, 86) 10.1%	130 (65, 65) 11.2%	54 (20, 34) 8.5%	91 10.5%	19 6.3%
6．友人、兄弟の勧め	16 (13, 3) 1.1%	13 (10, 3) 1.1%	6 (2, 4) 0.9%	11 1.3%	3 1.0%
7．通学の便を考えて	204 (101,103) 14.4%	235 (117, 77) 16.8%	284 (154,130) 44.9%	387 44.8%	127 42.1%
8．経済的面から	417 (250,167) 29.5%	370 (257,113) 32.0%	7．に含む	7．に含む	7．に含む
9．将来の就職を考えて	326 (151,175) 23.1%	249 (126,123) 21.5%	202 (96,106) 31.9%	265 30.6%	85 28.1%
10．なんとなく共通一次で入れる圏内にいたので	431 (319,112) 30.5%	303 (237, 66) 26.2%	184 (132, 52) 29.0%	341 39.4	152 50.3%
11．その他	158 (109, 49) 11.2%	115 (94, 21) 9.9%	63 (51, 12) 10.0%	------	------

果）で大学を選んでいる者が最も多い。

また、先生や親の勧め、通学の便や経済的理由、将来のことなど、どちらかというと地元志向の者もかなりあることがわかる（特に女子が多い）。

4.2 ここ数年で変化してきたこと

A，B分割日程になってからはなんとなく入れる圏内にいたからという理由を挙げる者は減ったが、学業の成績で選ぶ者の割合が年々大きくなってきている。これは毎年工夫を凝らして受験制度を改革しても受験業界からの情報の渦に巻き込まれて、いやおうなしに行きたい大学でなく、行ける大学を選ばざるをえない状況になってきているためと思われる。

5．まとめ

友人との関係が学生生活や悩みに大きなウェイトを占めているにもかかわらず、大学の志願動機では友人・兄弟の勧めが1％程度であることから、生活や悩みの解消に欠くことのできない存在の友人や兄弟の影響が受験ではほとんど関係がないほど情報化の中で入試が行われ、それが近年ますますエスカレートしていることがうかがわれた。

入試制度自体にも問題があることが各方面から指摘され、新テスト等が新たに実施されようとしているが、今日の情報化社会のなかでは結局入試制度が変わるたびに受験業界などからの情報が氾濫し、受験生はいやおうなしにその情報にふりまわされて、自分の友人などを見失っていくのではないかと思われる。そして、それが大学生活において、いくつかの弊害をおよぼしていくことは予想に難くない（もうすでに多方面から弊害が指摘されているが）。

今回の調査対象であるT大学は典型的な地方中堅大学であるので、この結果はかなりの大学の新入生に対してあてはまるのではないかと思われる。

今後の課題として、我々にできることは、このようなアンケート結果を参考にして、できるだけ的確なアドバイスを学生に対して行うように努力し、また情報というもののとらえ方をしっかり身につけるように情報処理関連の授業等で指導していくことであると思われる。

参　考　文　献

(1)松原勇：授業におけるTSSの操作に関する一考察，日本教育工学雑誌，12-2，P.71-76(1988)

(2)松原、山西：TSSを用いた学習環境に関する一考察，CAI学会誌，5-4，P.26-31(1988)

(3)松原勇：TSSを用いたコンピュータリテラシーについて，CAI学会誌，5-2，p.55-63(1987)

(4)松原、山西：ＴＳＳを有効に利用するためのＣＡＩシステムについて，富山大学教育実戦研究指導センター紀要，3，P.33-39(1988)

(5)高尾テルノ：学生生活と課外活動の関連について、富山体育学会紀要、16，P.1-6(1983)

(6)高尾テルノ：最近の学生生活と悩みについて、富山体育学会紀要、15，P.1-12(1982)

(7)松原、高尾：大学生の生活の因子構造分析，電子情報通信学会技報，ET88-2，P.21-26(1988)

(8)松原、高尾：大学生の精神衛生に関する一考察，北陸公衆衛生学会誌，15-1，P.47-53(1988)

(9)松原治郎：日本青年の意識構造、弘文堂、東京(1975)

(10)吉田、門脇：最近の学校生活と悩みについて、ＮＨＫブックス、東京(1978)